

令和5年度 大田区立赤松小学校 授業改善推進プラン

- ・関係法規
- ・東京都教育目標
- ・東京都教育ビジョン（第4次）
- ・大田区の教育目標
- ・おおた教育ビジョン

- 学校教育目標
- つよくたくましい赤松の子
 - よく考えくふうする赤松の子
 - こころゆたかな赤松の子

- ・学校、地域の実態
- ・地域の期待や願い
- ・保護者の期待や願い
- ・期待される児童像

独自教科新設に
向けた研究実践校

学力向上にかかわる学校経営方針 “未来社会を創造的に 生きる子供の育成”

・ユネスコスクール
・大森第六中学校との
小中一貫教育の推

◎学習指導要領の趣旨を踏まえ、ESD（持続可能な開発のための教育）を推進し、知・徳・体の調和のとれた生きる基盤を培うために

- ・基礎的・基本的な内容の確実な習得とその活用・探究の力を育成するための授業の質的改善
- ・自ら課題を設定し、柔軟に考え、豊かに表現する問題解決学習の日常化
- ・個性や能力に応じた指導の充実を図るための指導体制の工夫・改善と全教員による組織化
- ・「地域創生」と「ものづくり」の視点から捉えた大田区独自教科の推進。（人材の活用と体験的な活動の拡充とその体系化）
- ・言葉を大切に、対話を通したコミュニケーション能力、思考力の育成

各教科の指導の重点

学習指導要領と同様に ESD の視点を重視し、全教育活動を推進する。そのために『赤松小学びのスタイル』を基に、指導形態を工夫し問題解決学習や体験学習の充実の下、一人ひとりの児童に基礎的・基本的な学力の確実な習得と思考力・判断力・表現力や創造力等の向上を図る。

総合的な学習の時間の指導の重点

ESD の充実に向け、探究的な学習の創造を目指し、『赤松小学びのスタイル』に基づいた学習過程を工夫するとともに、「かかわり・伝える力」「見だし・探究する力」「気付き・生かす力」の育成を図る。特に、環境教育・国際理解教育・ボランティア教育・食育の推進、地域との連携を推進する。

進路指導に関わる指導の重点

児童一人ひとりのよさや可能性の発見に努め、肯定的な自己理解を促す指導を進め、希望や目標をもって生きる態度を育む。

「あかるく かしこく まっすぐに
つかむ・つなげる 赤松の子」を目指して

本校における『問題解決の力』

- ① 問題を見いだす力
- ② 計画を立て、実行する力
- ③ よさを認め合い、高め合う力
- ④ 自分の変容に気付き、次に生かそうとする力

試行錯誤しながら、「創造」と「探究」を繰り返す学習

本校における『学びのスタイル』



特別の教科 道徳の指導の重点

多様な指導方法を取り入れた授業を展開し、「考え、議論する道徳」の充実を図る。「規範意識の向上」と「思いやりの心を育む」ことを教育活動全体を通して行い、生命、人権、個性を大切にするとともに人間尊重の精神の育成を重視する。また、開校144周年の歴史と伝統を重んじ、郷土愛、愛校心の育成にも努める。さらに、ボランティア、障がい者理解、日本人としての自覚や誇り、豊かな国際感覚等の資質の育成を努める。道徳授業地区公開講座の活用を図るとともに実践への意欲を高める。

特別活動の指導の重点

異学年集団での関わりを重視し、児童一人ひとりがめあてをもち、主体的に活動することを通して活動の喜びを味わいながら、希望や目標をもって生きる態度、心身ともに健康で安全な生活態度、他を思いやり協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

生活指導に関わる指導の重点

『赤松スタンダード』を基に、基本的生活習慣と新しい生活様式の定着を図り、自他の生命、人権、個性を尊重し、思いやりやいたわりの心、規範意識を育てる。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容、指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領に則り、ICTを活用した習得型・活用型・探究型の学習をバランスよく配置する。 ●問題解決の過程をもとにした学習の実践をする。 ●全教科で『ESD カレンダー』を作成し、育成すべき資質・能力を高める。 ●算数は全学年で習熟度別少人数指導を行い、ステップ学習を充実させる。 ●全学年でALTによる外国語教育を充実させ、国際理解教育を推進する。 ●大田区学習効果測定や各種調査の結果を分析・検討し、活用する。 ●巡回指導教員等との連携を図り、特別支援教育を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●行事の精選、特別時程の設定を通して時数の確保を図る。 ●週2回朝『読書タイム』を実施し、読書習慣の定着と読解力向上を目指す。 ●年間6回土曜授業日にパワーアップ教室（算数）を設定し、算数の学力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●独自教科新設に向けた研究推進校として、教科「おおたの未来づくり」の新設に向け、研究体制の整備を図り、全学年で研究授業に取り組む。 ●OJTの日常化・組織化のための体制を充実させ、職層に応じた役割を確実に担う。 ●校外の研修成果は資料提供、ミニ講習会、職員会議時の報告等で校内に還元する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習カウンセリング（三者面談）を実施する。 ●指導と評価を一体化して捉え、A・B基準を明確にして指導にあたる。 ●相互評価（ハンドサイン）を有効活用する。 ●保護者による授業評価を公開日や授業参観日に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●『スクールサポートあかまつ』と連携し、ボランティアの組織化の拡充を図り、地域人材等外部の教育力を有効活用して、児童の多様なニーズに対応し、柔軟な学習過程が編成できるよう創意・工夫と積極的推進を図る。 ●保護者ボランティアを計画的に活用する。 ●保護者会、ホームページ、学年・学級便り等の充実を通して、保護者への説明責任を確実に果たす。

国語科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

現2年	現4年
<ul style="list-style-type: none"> 文字指導では、字形、読み方、筆順、使い方の練習を繰り返し行った。ミニテストを繰り返しながら、覚えていない漢字がないようにした。 登場人物の気持ちや場面の様子を考えながら、物語を読み進め、音読劇を行った。 日記や観察記録を書く単元の学習において観点を整理して取り組んだことで、したこと、見たこと、聞いたこと、思ったことなどを詳しく書くことが定着してきた。 相手に伝わるように文章を正しく書き表す点で課題が残る。 場面に応じた声の大きさや話型について掲示したり、小グループや全体の場で発表する機会を設けたりして、話す力を高めた。聞く姿勢の定着が課題である。 読み聞かせなどを通して、物語や昔話の楽しさを伝え、読書への意欲を喚起できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習は、繰り返し学習を行い、間違えた字を正しく直す練習をしてきたが、とめ・はねを意識して書くことや、学習の定着には個人差があり、課題が残る。 筋道を立てて話す力や、相手に伝わるように文の形で話す力が育つように、日直による朝のスピーチや発表する機会を設けて指導を重ねてきた。 目的を意識して話題を集め、相手に伝わるように理由や事例を挙げながら話の中心を明確にする力、内容のまとまりをつくって文章を構成して考えられる力がつく力を課題として、今度も指導を続けていく。
	現5年
	<ul style="list-style-type: none"> 話す・聞く活動に毎日取り組み、相手に伝わるように順序を考えて話すこと、声の大きさや速さなどに気を付けることを指導してきたことで、 漢字を正しく書くこと、修飾語などの言葉の働きについて理解する力は課題である。 文章を書く際には、事実と考えを区別して書くように指導した。自分の考えをもちながら文章を書けるようになってきたが、文章の構成を意識して相手に伝わりやすい文章を書くことが課題である。
	現6年
<p style="text-align: center;">現3年</p> <ul style="list-style-type: none"> 新出漢字については、漢字ノートの確認を徹底し、字形や書き順を指導したが、定着には個人差があり、課題が残る。 書く活動全般を通して、文章を書くときのきまりを意識させ、「はじめ」「なか」「おわり」の構成に沿って書くように指導してきたので、読むことにおいても文章構成を意識するようになった。 「聞き方」「話し方」のポイントを掲示し、全体の場やグループでの発表機会を短時間でも少しずつ設けたが、まだ個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明・手順や発言を正しく聞き取ること、意図を捉えることを意識させたことで、日常的に取り組めるようになった。 文章を書く際には既習の漢字を使っていくように指導したが、全体的にまだ不十分である。 「はじめ・中・おわり」の構成を繰り返し指導したことで、自分の意図を読み手に分かりやすく伝える文章を書くことができるようになってきた。

2 「大田区学習効果測定」結果の分析

4年	5年	6年
<ul style="list-style-type: none"> 正答率の目標値を「基礎」「活用」とともに上回っている。 「我が国の言語文化に関する事項」については目標値を大幅に上回っているものの、「書くこと」「文章を書くこと」に関しては、下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 正答率の目標値を上回っている。 「我が国の言語文化に関する事項」については目標値を大幅に上回っているものの、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関しては、他領域よりもその度合いが小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 正答率の目標値を大幅に上回っている。 「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」については目標値を上回っているものの、他領域よりもその度合いが小さい。

3 授業改善策

全校の取り組み	
<ul style="list-style-type: none"> ・文字・漢字指導では、字形、読み方、筆順、使い方の練習を繰り返し行う。小テストを行い、習熟の徹底を図る。 ・学年に応じて「聞き方」「話し方」のポイントを掲示したり、スピーチなど全体の場で発表する機会を設けたりして、「話す力」「聞く力」を高める。「話す力」では、発言の仕方（相手によく伝わるような声の大きさ、要点を絞った内容）を身に付けさせる。「聞く力」では、話し手を見る、最後まで聞く、相手が発言し終わってから質問や意見を伝えることを徹底する。 ・読書では、発達段階により本の紹介や読み聞かせを行い、読書の楽しさを積極的に伝える。 	
1年	4年
<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでの意見交流をしたり、スピーチ等全体の場で発表する機会を設けたりしながら、「話すこと・聞くこと」の力を高める。 ・平仮名、片仮名、漢字の学習では、正しい鉛筆の持ち方、正しい書き順で形よく文字が書けるよう繰り返し指導し、小テスト等を活用して定着を図る。また、学習した文字を使っての「言葉集め」や「短文作り」「読書」を通して語彙を増やすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎話す・聞く活動を通して相手に伝わるように順序を考えて話すこと、声の大きさや速さなど、機会があるごとに意識させて指導する。 ・説明文の学習では、形式段落相互の関係に着目し、意味段落を意識して読み進めていくことで文章のまとまりを捉えられるように指導する。 ・漢字小テストと復習を繰り返し行うことで、文字が正しく定着できるようにする。
2年	5年
<ul style="list-style-type: none"> ◎身近なことや経験したことについて書く活動を通し、文章を書くときのきまりや観点を意識させ、改行や助詞、促音や拗音、濁音を正確に記述することを身に付け、相手に伝わる文章が書けるよう指導する。 ・書いた文章を自分で読み直す機会を設ける。 ・漢字のミニテストを継続して行い、間違えた字を正しく直すことで、確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎話す・聞く活動を通して相手に伝わるように順序を考えて話すこと、声の大きさや速さなど、機会を多く設けて指導する。 ・日常的に文章を書く機会を授業の中に取り入れる。「はじめ・中・おわり」の構成で、長い文章を書く機会も定期的に設けていく。 ・漢字小テストと復習を繰り返し行うことで、漢字を正しく書くことができるようにする。
3年	6年
<ul style="list-style-type: none"> ◎ペア対話・小グループでの話し合い活動を効果的に取り入れ、どの児童も発言をし、意見を交流する場を整える。 ・書く活動では、接続詞を正しく使い文章を書くことで、段落相互のつながりを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く際には既習の漢字を使っていくように指導する。目的や意図に応じて相手に伝わるような書き方を意識させる。 ◎段落構成については、「初め・中・終わり」を捉えさせ、それぞれの段落の役割や要点を明確にし、段落相互のつながりを意識させて考えられるようにする。また、文章を書く際にも生かすようにさせる。 ・説明や手順、発言を正しく聞き取ること、意図を捉えることを意識させ、日常的に取り組めるようにする。

算数科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

現1年	現4年
<div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); opacity: 0.2; font-size: 4em;">/</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の中で具体物を用いて時刻や時間・長さ・重さについての指示をするなど、意識的に触れる機会を増やし、定着してきた。 ・集団での検討を重視し、互いに自分の考えを表現したり、友達の考えを読み取ったりする学習活動を多く取り入れた。引き続き定着を図る指導が必要である。 ・図形の学習では、繰り返し作図の練習をさせ、作図の技能を身に付けさせたが、個人差が大きく、引き続き定着を図る指導が必要である。
現2年	現5年
<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題から大事な言葉を見付けたり図に表したりすることで、その関係を式に表すことができるようになってきたが、問題場面を正しく判断できるかについては、課題が残る。 ・時間の概念の理解や計算、長さ、水のかさの計算、くり上がりやくり下がりのある計算については個人差が大きい。基礎的・基本的な内容の定着を引き続き図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図や表、式や言葉を用いて考えたり説明したりできるようになってきた。 ・グループ学習やペア学習などの活動を取り入れたことで、互いに学び合うことができた。 ・学力の個人差が大きく、計算ドリルを反復し、習熟を図ったが、タブレットドリルなども活用し、引き続き定着を図る指導が必要である。
現3年	現6年
<ul style="list-style-type: none"> ・図や式・言葉で自分の考えを書き、意欲的に伝えるようとする児童が増え、互いの考え方の差異点や共通点を検討できるようになってきた。 ・区ステップ学習等で基礎・基本の習熟を図ったが、まだ個人差が大きく、引き続き定着を図る指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図や表、式や言葉を用いて考えたり説明したりできるようになってきた。 ・「なぜ、そうなるの？」という一歩踏み込んだ問いかけに、既習事項を活用して説明できる児童が増えてきた。 ・学力の個人差が大きく、ステップ学習等で基礎・基本の習熟を図ったが、引き続き定着を図る指導が必要である。

2 「大田区学習効果測定」結果の分析

4年	5年	6年
<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は目標値を上回っている。「基礎」「活用」ともに、上回っている。 ・領域別では、「データの活用」「表と棒グラフ」が目標値を下回っているため、知識・理解の定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は目標値を上回っている。「基礎」「活用」ともに、上回っている。 ・領域別では「変化と関係」「データの活用」が目標値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は目標値を大きく上回っている。「基礎」「活用」共に上回り方が大きく、本質的な理解力が高いことが分かる。 ・領域別では「変化と関係」が目標値を大きく上回っている。

3 授業改善策

全校の取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・区ステップ学習等を活用して基礎・基本を徹底し、底上げを図る。 ・学び合い活動（ペア学習・グループ学習等）を取り入れた学習形態を工夫する。 ・『ノートの達人』を活用して、ノート指導を徹底する。

1年	4年
<p>◎具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして、数の合成・分解や計算の仕方を考え、立式の判断が正しくできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題場面を具体的にイメージしたり、キーワード（「あわせて」「ちがいは」「なんばんめ」等）に焦点を当てたりして、意味理解を深めるようにする。 時刻の読み取りや計算の習熟を図るため、宿題や日常生活の中でも継続して反復練習をさせる。 	<p>◎一問一答ではなく、様々な視点から意見を出し合って考えを深める問題解決学習の授業を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の違う考えを聞き、いろいろな解き方を知り、文章や図などから必要な情報を読み取り、自分の言葉で説明できるように指導していく。 児童の実態に応じて、問題把握のために具体物や半具体物、ICT機器などを効果的に用いる。
2年	5年
<p>◎具体物の操作や言葉、数、式、図による表現により問題場面を正確に捉え、立式の判断が正しくできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分と友達の考えを比べて共通点や相違点に気づき、考え方の共通理解を図る。 数の構成や相対的な大きさについて正しく表せるように、反復練習による定着を図る。 日常生活でも、時計の読み取りや時間の計算、単位の読み取りや計算を行う機会を設け、継続的な習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算・作図等を反復練習させ、基礎技能を高める。 <p>◎様々な視点から意見を出し合って考えを深める問題解決学習の授業を進めていく。また、数量関係を正しく捉えられるように、図や数直線を使って説明し、ノートに思考過程を残すようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 集団での検討を重視し、互いに自分の考えを表現したり、友達の考えを読み取ったりする学習活動を多く取り入れる。 児童の実態に応じて、問題把握のために具体物や半具体物、ICT機器などを効果的に用いる。
3年	6年
<ul style="list-style-type: none"> 日常の中で具体物を用いて時刻や時間・長さ・重さについての指示をするなど、意識的に触れる機会を増やす。 <p>◎集団での検討を重視し、互いに自分の考えを表現したり、友達の考えを読み取ったりする学習活動を多く取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の学習では、繰り返し作図の練習をさせ、作図の技能を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算・作図等を反復練習させ、基礎技能を高める。 <p>◎1つの問題を多様な方法で解決させ、それぞれのよさを確認する。また、ノートにそれらの思考過程を残し、振り返られるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 集団での検討を重視し、互いに自分の考えを表現したり、友達の考えを読み取ったりする学習活動を多く取り入れる。その中で学んだ新しい考えを、類題等で活用させる。 振り返りの活動を取り入れることで、児童の発想の源を顕在化させる。また、それを共有する活動を繰り返すことで、数学的な見方・考え方を育む。 「なぜ、そうなるの?」といった一歩踏み込んだ発問に、既習事項を活用して説明できる力を育む。

理科 授業改善推進プラン

1 昨年度（旧学年）の授業改善推進プランの検証

現4年	現5年	現6年
<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の際に、比較したり細部に目を向けたりするなどの視点を明確にした。 気づきについて話し合う時間を設定し、気づきの質を高めた。 問題解決の過程を経た学習を繰り返すことで、知識・理解の定着を図った。自分で育てる活動を通して、身近な植物に親しみ、進んで観察した。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元毎に振り返りの時間を設け、正しい用語を用いてまとめる学習を積み重ねた。 ノート指導を定着させ、予想や理由、実験計画や結果、考察などをしっかりと記述するようにし、問題解決の学習過程を身に付けさせた。 ICT機器や具体物を活用することで、既習事項や実験方法に対する理解を深めることにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想や仮説を基に、条件制御の考え方を用いて解決の方法を導けるようになった。 多くの実験を通して、実験器具の確認や既習内容を取り上げ、実感を伴った理解を図ることができた。 根拠のある予想をもたせることで、解決の見通しをもたせ、自分で解決しようとする意欲を高めた。

2 「大田区学習効果測定」結果の分析

現4年	現5年	現6年
<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、「基礎」は目標値を上回ったが、「活用」が目標値を下回った。 問題内容別正答率をみると、「物質・エネルギー」「植物の育ち方」「音の性質」「電気の通り道」「磁石の性質」「物の重さ」は知識の定着が未達成だったといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、目標値を1ポイント下回った。 内容別正答率では、「植物の成長」「動物の様子」「月と星」「雨水のゆくえと地面の様子」「自然の中の水」は、目標値を上回った。 領域別正答率では、「知識・技能」が目標値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、目標値とほぼ同じである。 内容別正答率においても、どの領域でも目標値とほぼ同じであった。

3 授業改善策

全校の取り組み	
<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験の技能が身に付くようにするため、理科室の学習環境を充実させたり、見通しをもって観察・実験を行う授業を行ったりする。 予想や気付きについて話し合い、気付きの質を高める。考察は、話し合い活動を通して共有化し、より客観的に考えさせるようにする。効果的な話型を活用し、相互の考えを伝え合うようにする。 植物の栽培や昆虫の飼育などの体験活動を多く設け、自然の秩序や規則性に気付かせるようにする。 	
3年	5年
<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の際に予想をする活動を設け、比較したり、細部に目を向けたりするなどの視点を明確にする。 知識・理解の定着を図るために、学習後しばらくの期間を経てから復習する機会を設けたり、教科書の練習問題を活用したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 条件制御について理解した上で実験を行い、量的変化や時間的変化に着目して調べさせる。 ◎予想や仮説を基に、条件制御の考え方をを用いて解決の方法を導けるようにする。 実験器具を使う時には、正しい名称や使い方を徹底して使用することで、知識・技能の向上を図る。
4年	6年
<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の学習過程が分かるように、項目ごとにノートに記述させる。 ◎自然の事物・現象から見出した問題について、既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想するといった問題解決の力を育成していく。 観察期間が長く、複数の生物を観察する教材がある単元では、他の児童が観察した記録を共有することにより、より多くの生物の1年間の変化を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎要因や規則性、関係を推論しながら観察、実験を行い、計画的に探究させる。 単元毎に知識・理解の確認の時間を設ける。 既習内容を適宜取り上げ、新しい単元の学習や日常の中で再定着を図る。

社会科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

現4年	現5年	現6年
<ul style="list-style-type: none"> 大田区の土地活用や地形の特徴、方位の意味理解について、徹底を図る必要がある。 地図資料やグラフの丁寧な読み取りやそれらを活用して自分の考えを表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県名の習得に努めた結果、各単元の内容を理解し身に付けることができた。 地図資料やグラフの丁寧な読み取りやそれらを活用して自分の考えを表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的資料を活用して必要な情報を集め、精選し、ノートやタブレットに記録したことを全体に知らせる活動を通して、課題に適した情報収集能力が高まった。 問題解決的な学習の進め方が理解できたため、単元全体での学習への興味・関心をもつことができた。 資料を総合的に読み取る力には個人差が見られる。

2 「大田区学習効果測定」結果の分析

4年	5年	6年
<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は目標値を上回っている。 ほとんどの領域・観点において、目標値を上回っているが、「市の様子の移り変わり」「くらしの移り変わり」については、目標値を下回ったため、知識・理解の定着が十分でなかったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は目標値を上回っている。 「都道府県の様子」は目標値を大きく上回った。 「伝統や文化、先人の働き」は他領域に比べて目標値との差があまりなかった。資料を読み取る技能は課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は目標値を上回っている。 全ての領域・観点において、目標値を上回っているが、「産業と情報の関わり」は他領域に比べてその度合いが低かった。

3 授業改善策

全校の取り組み	
<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象への疑問や気付きから問題を追究させ、問題解決的な学習過程で授業を進めていく。また、各単元の要点事項を確実に理解させる。 方位（東西南北）の理解定着のため、適宜児童に自分の位置から見た方位を確認させるとともに、地図を読み取る際にも方位の確認をさせる。4年以上は、総合的な学習の時間や理科の学習との関連も図る。 3年から地図帳に慣れ、4年以上では、読み取ったことから考えられる地域の特色などを理解させる。 I C T機器を活用して児童の視覚に訴え、理解を容易にする。 写真やグラフなどの資料をよく見て、比較しながら考えたり、調べたことから自分で考えたことを表現したりできるような学習活動を展開していく。 	
3年	5年
<ul style="list-style-type: none"> ◎地域の様子を的確に観察・調査し、具体的資料を読み取ったり、活用したりして必要な情報を集め、まとめる機会を設け、全体でも検証する。 見学の際にメモした内容や、学習したことを、自分の言葉で新聞などにまとめさせる。 学習した事柄と自分も含めた地域の人々の生活との関連を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎都道府県などの基本の学習の定着を図るため、繰り返し学習を行う。 ◎具体的資料を活用して必要な情報を集め、読み取ったり、まとめたりする。読み取りのポイントを示すことで、精選して、ノートに記録する活動の充実を図る。 複数の資料の中からめあてに合った資料を選択し、社会的事象の意味や特色について考える場面を設定し、自分の考えを表現できるようにする。

4年	6年
<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習において、適切な調べ方を理解し、各種資料を用いて自分の考えを表現することができるようにする。 ◎具体的な資料を活用して必要な情報を集め、読み取ったりまとめさせたりする。その際に、読み取りのポイントを示したり、読み取るための時間を十分に確保したりする。 資料の読み取りの場面では、複数の資料の中からめあてに合った資料を選択し、社会的事象の意味や特色について考える場面を設定し、自分の考えを表現できるようにする。 都道府県などの基本の学習の定着を図るため、繰り返し学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りの場面では、必要な情報を集めて多くの視点から気付かせ、ノートやタブレットへの書き込みを充実させる。この活動を通して、思考力の向上を図る。 複数の社会的事象を比較させることで、学習事項を関連させて理解できるようにする。 社会的事象を容易に理解できるよう、ICT機器を効果的に用いる。

生活科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

<p>現 3年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「まちたんけん」「あそんでためしてくふうして」では、主体的に考え、積極的に活動できるように設定を工夫した。 動植物を育てる際に児童が自ら主体的に活動ができるように、動植物の変化や様子に目を向けさせるよう、意図的に声を掛けたりしながら、しっかり向き合えるようにした。気付きに共感したり、それを学級全体に広めたりすることで、児童の活動意欲を高められた。 気付いたことを適切に表現できるように、見る視点をみんなで話し合ったり、よい表現を全体に広げたり、他教科の学習と関連させたりしながら表現力を身に付けさせてきた。（国語での文型の指導や、図工での描画のポイント指導など）
------------------------	--

2 課題（重点）

<p>1年</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であったこと、校舎全面改築のため校庭や裏庭がなかったことで、1年間を通して四季の変化に気付いたり、自然を十分遊びに生かしたりすることが難しかった。 朝顔の世話や「ひろがれえがお」での笑顔を集める活動（家庭・学校）では、気付きや表現、取り組み方に個人差が見られた。
<p>2年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「とびだせ！町のたんけんたい」では、町探検を行うことはでき町の様々な建物や施設に興味関心をもつことができたが、その中で町の人との関わりをもつ時間を設定することができなかつたため、自分たちの町を支える人々の存在に気づかせることができなかった。 野菜の栽培への意欲や取り組み方に個人差があった。 モルモットの世話に責任をもって取り組んでいるが、個人差が見られる。

3 授業改善策

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・「きせつあそび」では、状況に応じた活動を工夫し、児童が主体的に考えて活動できるよう児童の思いを大切に、自然物や場の設定に配慮しながら学習を計画する。 ・動植物を育てる際に児童が自ら主体的に活動ができるように、動植物の変化や様子に目を向けさせるよう、意図的に声を掛けるなどして、しっかり向き合えるようにする。気付きに共感したり、それを学級全体に広めたりすることで、児童の活動意欲を高める。 ・気付いたことを適切に表現できるように、見る視点をみんなで話し合う、よい表現を全体に広げる、他教科の学習と関連させるなどして表現力を身に付けさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に地域との連携を図り、人との関わりの機会を増やす。 ・植物には生命があり、その世話を怠ると大切な生命がなくなってしまうことを伝え、世話をしていることとする意欲を高める。 <p>◎モルモットの世話を責任もって行うために、担当のモルモットを決めて自分の仕事を明確にし、各自が責任をもって仕事を行うようにする。「2学期には、少しずつ1年生にモルモットの世話の仕方を教える。」というめあてをもち、積極的に世話をしようとする意欲を高める。</p>

図画工作科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・時間を区切りながら、作品制作に取り組んでいる。可能な限り時間的にゆとりをもち、経験値を増やすために様々な用具や素材を用いてチャレンジしている。児童の実態を見ながら、課題設定をしているので、意識の高まりを感じる。しかし、中には、2時間継続して集中できない児童もおり、スモールステップでの活動が必要な児童も存在する。
- ・見通しをもって学習できるように板書で手順などを示してはいるものの、理解できなかったり、時間内で作り終えることができなかったりする児童がいる。早く終えた児童が、友だちをサポートするなど互いに協力し合うことができる児童がまだ一部である。
- ・早くに仕上げを優先し、画一的な表現で満足する児童も若干名だが存在するため、発想を広げたり、表現方法を自分で選んだりするなど、児童の創意工夫を引き出す手だてが今後も必要と考える。
- ・一人ひとりの思いを大切に、完成作品を大切にする気持ちを育むとともに、互いを認め合う姿勢を身に付けていく必要がある。
- ・大型ディスプレイを用いて作品紹介や鑑賞を通して、見る、考える、話す、聞くことを繰り返すことで、コミュニケーションを盛んにし、感じたことを言語化することに慣れつつある。作品説明や工夫について意識を高めるためにも、言葉で表現する力を育てていく必要がある。
- ・タブレット端末を用いて、作品を各自で撮影し、題名や吹き出し、解説などを付け提出することで、鑑賞や成績の記録などでも活用できた。

2 現在の分析

	A 表現	B 鑑賞
内容別	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したいことを見付け、どのように表すかを考えて、自分の表現を大切にしている。 ・よりよく表すために、助言を受け入れたり、自身でも試行錯誤したりするなどして手を加えることができる児童も何人か見られる。 ・完成度にも差があり、完成に至るまでの時間差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの作品の面白さや楽しさについて感じ取ったり考えたりして、見方や感じ方を広げている。(低) ・自分たちの作品やつくり方のよいところや面白さについて考え、見方や感じ方を広げている。(中) ・造形的なよさや美しさについて考え、見方や感じ方を深めている。(高) ・文章表現が上手な児童は、表現の工夫や感じたことを詳しく伝えることができるが、言語表現が苦手な児童の鑑賞の力が見取りにくい。

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
観点別	<ul style="list-style-type: none"> 安全に用具を使うことを学び、正しく安全に使うことができている。 様々な材料を使う機会を通して、それぞれの材料や用具の特徴を生かした表現ができる児童が増えている。 指に力が入らず「基礎的・基本的な技能」が不十分な児童も若干存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい課題に入る際、前時に課題を告知しているため、予めイメージを想起している児童が多く、児童は、課題に興味をもち、豊かな発想を生かしている。 思考の深まりに個人差があり、作品の完成度にも差がある。 気づきや工夫について述べているふり返りカードを見ると、めあてに対する意識に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 図工を楽しみにしている児童が多く、扱う素材や用具にも関心を寄せている。 友だちの力を借りたり、教え合ったりする姿も見られ、協力し合う姿が見られる。 おしゃべりに夢中になってしまい、本来の活動がおろそかになる児童も若干名存在する。

3 授業改善策

1年	<ul style="list-style-type: none"> 専門知識が豊富な図工専科の教員が指導することで、児童の発想を豊かに引き出しながら、場面や各児童に応じた、より専門的な指導・助言・支援を行っていく。 いろいろな素材に出合う場面を設定する。 道具の使い方を繰り返し指導し、安全に留意しながら活用できるようにする。 造形遊び等の活動も含め、児童の着想や表現プロセスにおいても価値つけていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 各題材において必要な基礎技能の習得を徹底し、単元を通し各自が工夫して活用できるようにする。 いろいろな素材に出合う場面を設定することで、造形的な面白さや楽しさについて考え、見方や感じ方を広げられるようにする。 出来上がった作品にあらすじを書くなどして、想像する喜びや楽しさを味わえるようにする。 造形遊び等の活動も含め、児童の着想や表現プロセスにおいても価値つけていく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 各題材において必要な基礎技能の習得を徹底し、単元を通し各自が工夫して活用できるようにする。 いろいろな素材に出合う場面を設定することで、造形的なよさや面白さについて考え、見方や感じ方を広げられるようにする。 作品に物語性をもたせ、文章表現することで、構想を練ったり発想したりする力を育てていく。 造形遊び等の活動も含め、児童の着想や表現プロセスを大切に、評価の方法を工夫する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 各題材において必要な基礎技能の習得を徹底し、単元を通し各自が工夫して活用できるようにする。 作品に物語性をもたせ、文章表現することで、構想を練ったり発想したりする力を育てていく。 タブレットを利用し資料検索ができる環境を整えることで、構想を練るための支援をする。 児童の着想や表現プロセスを大切に、評価方法を工夫する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 各題材において必要な基礎技能の習得を徹底し、単元を通し各自が工夫して活用できるようにする。 作品に物語性をもたせ、文章表現することで、構想を練ったり発想したりする力を育てていく。 タブレットを活用し、構想を練ったり、よさや美しさについて比較しながら試行錯誤したりできる環境を整える。 活動予定を知らせ、工程の目安を示すことで、児童が見通しをもてるようにする。 協働の機会を設けることで、個人のことのみならず、全体を意識し協力し合うことでもたらす成果に気づかせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 6年間の集大成として、これまでの経験を活かして素材や用具を自ら選択して表現できる場面を設定する。 作品に物語性をもたせ、文章表現することで、構想を練ったり発想したりする力を育てていく。 タブレットを活用し、構想を練ったり、よさや美しさについて比較しながら試行錯誤したりできる環境を整える。 活動予定や工程の目安を示すことで、児童が見通しをもって活動できるよう支援する。 協働の機会を設けることで、個人のことのみならず、全体を意識し協力し合うことでもたらす成果に気づかせる。

※全学級において、日直は黒板に板書してある「めあて」見て、自分なりの目標を言ってから授業挨拶をすることを習慣づける。それを行うことで、全員の意識づけにもなると考えている。

音楽科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

昨年度は基礎的な技能の定着を徹底してきた。技能が定着すると表現の幅が広がり、表現することを楽しむ児童が増えてきた。思いや意図を音楽で表現するために、今年度は基礎的な技能面の向上を図り、自分の思いや意図を表現できる力を身に付けられるようにしたい。

2 現在の分析

内容別	表現		鑑賞
	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、互いの音を聴きながら、響きのある声で歌えるようになった。 器楽では、基礎の定着を徹底している。今後は音色や音の重なりに気を付け友達と音を合わせる喜びが味わえるようにしたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 楽曲を聴き、音の重なりに気付いたり、音楽を特徴づけている要素と曲想を関連付けて聴いたりできるようになった。 友達の演奏を聴き合い、そのよさに気付いたり、互いにアドバイスし合ったりする児童が少しずつ増えてきている。
観点別	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
	<ul style="list-style-type: none"> 技能では、高い力をもっている児童がいる一方、自分の表現したい思いを演奏につなげられない児童もいる。技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や曲の特徴を生かした表現を工夫して、どのように歌いたいのか思いをもつ児童が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音や音楽に関心を持ち、意欲的に取り組む児童が増えてきている。

3 授業改善策

1年	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく活動できる教材を活用し、鍵盤ハーモニカなどの基礎的な技能を高める。 教科書教材を活用し、音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく提示したり、音楽に合わせて体を動かしたりして、拍感を身に付けるとともに音楽の楽しさに気付けるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> みんなで声を合わせることを意識させ、無理のない声で歌えるよう指導する。歌うときは、友達の声を聴き合うようにする。 2年生で扱う楽器の基本的な奏法を身に付け、拍の流れにのって友達の音に合わせて、楽しく演奏できるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸や発音の仕方に気を付け、曲想を生かした歌い方を工夫しながら伸び伸びと歌えるようにする。 リコーダーの基本的な奏法（姿勢・タンギング・息の強さ等）が定着できるような練習を繰り返し行い、美しい音色を目指して演奏できるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、互いの音を聴き合って歌うことを意識するように促し、音の重なり方や曲想の変化を感じて歌えるようにする。 鑑賞では、曲想の変化と旋律、音の重なりとの関わりについて気付けるように、聴くポイントを絞ったり、音に合わせて体を動かしながら聴いたりする。 器楽の学習では、フレーズや拍の流れを意識しながら、それぞれの楽器の奏法に即した基本的な奏法を身に付け、曲想に合った奏法で演奏できるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、響きのある声を意識して、各声部の歌声や全体の響きを聴き合ったり、歌詞の発音に気を付けて歌ったりできるようにする。 器楽では、曲想を生かした表現を工夫し、全体の響きや音のバランスを感じて演奏できるようにする。 鑑賞では、言葉の感じと旋律、歌詞の内容との関わりを考え、曲や演奏のよさを見出しながら曲全体を味わって聴けるようにする。

6年	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では各声部の歌声や響き、伴奏を聴いて、曲想を生かした表現を工夫して歌えるようにする。 ・金管楽器を演奏するための基礎が身に付くように、呼吸法などの基礎練習に重点を置く。 ・器楽では、自分が演奏するパートの役割や全体のバランスを考え、曲想を生かした表現の工夫をし、思いや意図をもって演奏できるようにする。 ・鑑賞では、音楽や諸外国の文化との関わりを感じ取りやすい楽曲を聴き、文化の多様性と日本の音楽のよさを感じられるようにする。
-----------	---

体育科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

現2年	現4年
<ul style="list-style-type: none"> ・明確なめあてをもち、友達同士でコツやポイントを確認し合うことを意識できるような学習カードづくりの工夫を行った。 ・友達同士で見合ったり教え合ったりする時間を設けることで、スモールステップで達成感を味わい、意欲をもって運動に取り組むことができた。 ・マット運動ではグループごとの活動とすることで、友達同士でアドバイスできるようにした。 ・簡単なルールからゲームを始めることで、楽しくゲームに参加できるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業の冒頭で、その授業の目標（めあて・ねらい等）を児童に示すことで、めあてを意識して運動に取り組む児童が増えてきた。 ・授業中に友達同士で教え合ったり、コツやポイントを確認し合ったりする取り組みを促していく。
現3年	現5年
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体の操作を上手にできるように、体づくり運動でいろいろな動きを経験させた。 ・学習のめあてを明確にし、グループで活動する機会を設けることで、自分たちで達成感を味わい、意欲をもって運動に取り組むことができた。 ・運動をする環境が少ない中、学習カードを工夫したり、様々な運動を紹介したりすることで、体力の向上を意識させるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人に技能に関する具体的なめあてをもって学習に取り組みせ、振り返りをさせることで次の学習に生かそうとする姿勢が身に付いてきた。 ・児童同士が励まし合い認め合う場を多く設定することで、意欲的に運動をする児童が多くなった。
	現6年
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてを明確にし、自己評価や友達による他者評価を行うことで、運動の仕方を工夫できるようにした。友達との教え合いや作戦についての話し合いも自分たちから行えるようになり、集団規律や個々の技能の向上につながった。 ・授業に関連する動き（補助運動）を取り入れた準備運動を行い、主運動の時間を十分とって運動量を確保することができた。

2 昨年度の体カテスト結果

現1年	現4年
	<ul style="list-style-type: none"> 男子は「上体起こし」「反復横とび」「立ち幅跳び」が全国平均を上回った。 女子は、「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」が全国平均を上回った。
現2年	現5年
<ul style="list-style-type: none"> 男子は多くの種目で、全国平均を下回っている。 女子は、「上体起こし」が全国平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 男子は、多くの種目で全国平均と東京都平均を上回った。 女子は「長座体前屈」「立ち幅とび」が全国平均を上回った。
現3年	現6年
<ul style="list-style-type: none"> 男女ともに、多くの種目で全国平均と東京都平均を上回った。 男子の「ソフトボール投げ」は、その中でも低い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 男子は「ソフトボール投げ」が全国平均を下回っている。 「立ち幅跳び」は男女ともに全国平均を上回った。

3 授業改善策

全校の取り組み	
<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で統一した指導を行うようにし、集団行動のきまりを徹底する。 体育的活動として「短なわ跳び」や「長なわ跳び」、「コーディネーショントレーニング」を行う。各学級目標をもって取り組み、体育以外の時間も活用して行う。 	
1年	4年
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であることや校舎改築中ということ踏まえ学習カードの内容を工夫し、一人ひとりがめあてをもって意欲的に運動に取り組めるようにする。 コーディネーショントレーニングを取り入れる。 体育指導補助員を活用することで、二人、三人体制の指導が可能になる。その利点を生かし、スモールステップで達成感を味わい、児童が意欲をもって運動に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを活用し、めあてを立てさせるとともに、達成できたかを振り返る時間を設定する。 ◎授業中に技のポイントを重点的に指導し、児童同士が関わりあえる機会を増やすことで、教え合う活動を促していく。 年間を通して短なわや持久走、の運動に取り組ませることにより、運動量の確保を充分に行い、児童の体力向上に努める。 ◎コーディネーショントレーニングを取り入れる。
2年	5年
<ul style="list-style-type: none"> ◎苦手な分野の運動にも積極的に挑戦する意欲を伸ばすため、運動遊びを行う場の工夫をしたり、動きを感覚的に掴ませる機会を設けたりする。 体育指導補助員を活用することで、スモールステップで達成感を味わい、意欲をもって運動に取り組むことができるようにする。 単元ごとの振り返りを充実させ、自分自身で学びや成長を実感できるようにする。 ◎コーディネーショントレーニングを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎めあてを明確にもたせ、自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫できるように、自分の力に合った運動の行い方を選べるように助言する。 ◎タブレットやデジタル教材、映像等を活用し、自分の動きを見たり、よい動きを見合ったりする活動を積極的に取り入れる。
3年	6年
<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを活用し、めあてを立てさせるとともに、達成できたかを振り返る時間を設定する。 体の動かし方を具体的に示し、活動時間を確保することで各種の運動を十分に経験できるようにする。 自分たちで成長できた実感をもたせるために、チームでの活動を多く取り入れ、学級に広めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎めあてを明確にして上達方法を考えさせたり、チームで話し合っ取り組ませたりする。教え合いや助言を普段から継続して行うようにする。 ◎準備運動でストレッチなどの柔軟運動を継続して行うようにする。 ◎コーディネーショントレーニングを取り入れる。

家庭科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

<現6年>

- ・裁縫では、作品製作の前に基礎・基本の技能の習得をするための時間を確保した。また、製作過程の段階に応じて段階ごとの実物見本や作品を拡大したものなどを示すなどの工夫をすることで、完成度の高い作品に仕上げることができた。
- ・昨年度は基本的な事項を学校で学習した上で、安全な時期に、クラスを3分割し完全に全工程を一人一人が取り組める形で実習を実施することができ、基本的な技能が身に付いた。
- ・学習したことを家庭で実践できるように、ワークシートの中に、家庭からのメッセージ欄を設け、家庭での協力を仰ぎ、実生活に役立つ技能の習得に取り組むことができた。

2 課題（重点）

5年	<ul style="list-style-type: none">・生活経験や興味によって完成度や進度に差があるため、初めての調理実習や裁縫で個々の児童に応じた技能の習得と支援が課題である。・学習したことを実生活に生かせるよう、家庭との連携が必要である。家庭によって協力が異なることが課題である。
6年	<ul style="list-style-type: none">・裁縫では、はじめに全員が共通課題に取り組むことで、それをもとに各自の作品を計画し、完成させることができた。しかし、はじめの共通課題の理解と技能に差があることは課題である。・調理では、家庭でのサポートによって技能の習得に差が出てしまうことは課題である。

3 授業改善策

5年	<ul style="list-style-type: none">・調理実習では、一人ひとりが材料を切ったり調理したりできるように、単元によって一人調理の形態を取り入れる。・実習前の学習でも、模造品を用いて実際に手順を学習するなどの工夫をする。・裁縫・調理の仕方の作業手順が分かるように、実物教材や視聴覚教材等を示すことで、自信をもって取り組めるようにする。・身に付けた技能を生かせる学習単元を設定し、学習に対しての楽しさや活用する喜びを味わわせる。・状況により、クラスを分割して一人調理に取り組ませ、基本的技術の習得を目指す。
6年	<ul style="list-style-type: none">・裁縫では、作品製作の前に基礎・基本の技能を振り返る時間を確保すると共に、完成作品を観察し制作の手順を考え、各自の計画を立てて取り組めるようにする。また、身に付けた技能を生かせる学習単元を設定し、製作の楽しさや活用する喜びを味わわせる。・裁縫・調理の仕方の作業手順が分かるように、実物教材や視聴覚教材等を示すことで、自信をもって取り組めるようにする。・調理や裁縫以外の学習内容にも興味・関心をもてるよう、あらかじめ家庭でのインタビュー等の課題を出すなど、意欲的に取り組める工夫をする。・調理実習では、一人調理の形態を取り入れ、技能の習熟を図る時間を確保する。・学習したことを家庭で実践する機会を設け、家庭からのメッセージ欄を設けて、家庭との連携を図る。・裁縫や調理およびそれ以外の学習でも、生活と環境のつながりを意識できる課題に取り組むことで、持続可能な社会にするために家庭生活の中でできることを考え実践しようとする態度を育む。